

住人十彩

2020 September
#5 ~谷口 武浩さん~



このコーナーでは、地域の頑張っている人や団体を紹介します。
今回は、有限会社谷口木工所の代表取締役であり、氷川町消防団の団長でもある
谷口武浩さん(法道寺)です。



- ①令和元年度から氷川町消防団の団長に就任。15分団619人の消防団員を指揮し、災害時は昼夜問わず消防団活動にあたる。
- ②氷川町総合振興計画の審議会委員として施策事業の評価・検証を行うなど、町政にも携わる。
- ③2015年ミラノ国際博覧会(ミラノ万博)に出品されたいぐさ・畳表ベンチ。木製部分は(有)谷口木工所で製作されており、側面を格子状にデザインするなど、繊細かつ確かな技術は国際的にも高い評価を受けた。
- ④木製建具はお客さんが求めるデザインを入念に打ち合わせし、イメージを共有した上で製作する。職人の手によって、既製品にはないデザインや、木製ならではの温もりの感じられる建具になる。



お客さんが喜ぶモノづくり

谷口武浩さん(50)は母、妻、2人の息子と5人暮らし。
障子やフスマ、別注家具などの木製建具の製作を手掛けて50年以上になる(有)谷口木工所の代表取締役を務めている。
子どものころ、先代である父の作業風景を見て育った谷口さんは、後継者になるために八代工業高校のインテリア科に進学し、卒業後は九州造形短期大学でデザインを学んだ。

その後、日本有数の家具の産地である福岡県大川市で5年間修業して様々な経験を積み、実践的な技術力を培った。

そして25歳の時に熊本に戻り、家業である(有)谷口木工所で腕を揮うこととなった。木製建具は、お客さんが希望するデザインなどを打ち合わせして設計・製作する。

「納品した建具を見て、お客さんが喜んでくれた時にやりがいを感じます。」と話す谷口さん。

熱気のもった作業所では、谷口さんを含めた職人たちが、お客さんの期待に応えるために日々汗を流している。

消防団活動で地域を守る

谷口さんは、消防団活動にも熱心に取り組んでいる。25歳で地元に戻ったと同時に消防団に入団し、平成17年度から2年間分団長、平成21年度から8年間指導員、平成29年度から2年間副団長、そして令和元年度からは団長を務め、これまで25年以上に渡って活動している。

谷口さんが熱心に消防団活動を行うのは、「子どものころ、地域の人たちに温かく見守られていたことを覚えている。今度は自分たちが消防団活動を通して地域の安全・安心を守り、恩返ししていきたい。」という思いがあるからだ。

災害時は家族や仕事より優先して活動にあたるなど、犠牲にするものも少なくないが、地域から消防団を頼りにされたり、団員との交流や絆が生まれるなど、大きなやりがいもあるという。

「大変なこともあるが、活動を通じて地元愛にあふれ、頼りがいのある魅力的な消防団を築いていきたいです。」と語る谷口さん。仕事や消防団活動などで忙しい毎日を送る谷口さんだが、何事にも一生懸命に取り組む姿勢は、地域住民や消防団員から熱く支持されている。

募集

このコーナーでは、地域の頑張っている人や団体を募集しています。自薦・他薦は問いません。詳しくは、お問い合わせください。

申込先：企画財政課 企画係
☎0965-52-5850

メール：
kouhou@hikawa.kumamoto.jp